

農業・農村と

地域再生

Serial **5**

農業の新しい担い手確保

新しく農業を始める人を新規就農者といいますが。最近では5万〜6万人で推移していましたが、2022年は4万6千人に減少しました。就農の内訳をみると、親元就農など自家での就農が69%、農業法人などに就職する雇用就農が23%、自ら農業を創業する新規参入が8%となっております。また40代以下が37%、女性が29%で、農家の減少や高齢化が進む中、自家での継業だけでなく、農外からの就農、若い世代や女性の就農は、農業の新しい担い手として期待されます。

今回は、和歌山県紀の川市が2022年から始めた就農研修「紀の川アグリカレッジ」と有田市の(株)早和果樹園の取り組みから、農業の新しい担い手の確保についてみていきます。

紀の川アグリカレッジでは、地域で生産されている収益性の高いイチゴ(地域ブランド「まりひめ」)の栽培で、「2年で稼げるイチゴ農家」になることを目標に実践的な研修が行われています。地元の農協や農業士会、農業委員会、紀の川市などで構

成された「紀の川市新規就農者受入協議会」が主体となり、研修生はイチゴ栽培の基礎知識、販売やマーケティングなど経営上の知識、独立に向けた事業計画づくり、地域文化など、農業経営を座学で体系的に学ぶとともに、イチゴ農家のもとで実習を行い、独立に必要な知識と技術を実践で身につけます。また期間中は、国や県の資金サポートがあり、安心して研修を続けています。第1期は、県外から30代の若い移住者5人が参加しています。前職をみると、公務員、システムエンジニア、会社員、証券マンと多様で、うち2人が女性です。研修生は生産だけでなく、「高品質の甘いイチゴを作りたい」「観光農園を開設したい」「カフェを開きたい」と将来の目標や希望を胸に受入農家について栽培を学んでおり、独立に向け、すでに家や畑を準備している方もいます。

次に、(株)早和果樹園は7戸のみかん農家が組合をつくり、共同選果・共同出荷を始めたのが前身で、現在は、品質にこだわりの持つみかん栽培とともに、6次産業化による加工品の開発・製造・販売に取り組み、最近では海外への輸出も行い、販路を広げています。農業は家族経営が多いのですが、同社は栽培技術の継承・向上とともに加工販売による付加価値を付け、後の世代にみかん農業を引き継いでいくために法人化の道を選びました。後継者となる社員を募集する際には、農業関係の採用募集ではなく、合同企業説明会で一般募集し、新卒の大学生を雇用しています。「農業に興味がある」「地域に貢献したい」と、地元出身のUターン就職や県外からのIターン就職が増加し、2022年には常勤社員が97名、パート・アルバイトは70名と事業が拡大しています。

和歌山大学の学びを浪切で

2024(令和6)年度 前期社会人受講生募集

<p>大学院科目</p> <p>◇ 商 法</p> <p>◇ マーケティング論</p> <p>【出願期間】 2/20(火) ~ 2/27(火)</p>	<p>学部開放授業</p> <p>◇ 不登校・ひきこもりと向き合う</p> <p>◇ 大阪の農業・水産業の将来を考える</p> <p>【仮登録期間】 2/20(火) 10:00 ~ 3/21(木) 17:00</p>
-------------------------------------------------------------------------------------------------------------	----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

詳細については右記まで ▶▶ 和歌山大学岸和田サテライト TEL&FAX 072-433-0875 岸和田サテライト 検索